



もうひとつの山が動いた

佐藤 齊一… 3

くらしのなかから


「女らしい」というコトバ…	黒岩 佐和子…	6
離婚……………	元 葉 三 津…	7
不思議な女になりたい……………	伊藤 登美子…	9
集会から……………		10
あごら読書室……………		12
女のつどい……………		2

表紙・野原まさこ

今月の編集は〈あごら新宿〉 150号 300円



女の講座・女のつどい

日 時	テ ー マ ・ 主 催 者	会 場 ・ 連 絡 先
3月8日(木) 19:30~	国際女性デー・女のコンサート △あさとりライブ▽	ミズ・クレヨンハウス 03 406 6492
3月10日(土) 14:00~16:00	「女を装う」読書会 講師・駒尺喜美	東京都婦人情報センター 03 235 1140
3月11日(日) 13:00~	性暴力とたたかう女たちのTOKYOアクション △性暴力とたたかう女たちのネットワーク'90▽ 	渋谷・宮下公園 0425 51 4702
3月14日(土) 18:00~21:00	さまざまな角度から天皇制をとらえるII 夫婦別姓と家父長制 講師 大山千恵子 △天皇制・おんな塾▽	江東区勤労福祉会館 03 686 5805 (野村)
3月20日(火) 17:30~20:00	ストリップ・ザ改悪II優生保護法 中絶できる時期の短縮II △89「中絶できる時期の短縮」に反対する女たちの会▽	飯田橋セントラルプラザ15F 03 391 4919
3月22日(火) 11:00~20:00	細田ひろみ陶芸展 24日(土) 20:00まで 22日14:00 オープニングパーティ△あこら▽	あこら読書室 03 354 3941
4月1日(日) 11:00~	あこら花見の宴 △あこら▽	新宿御苑 03 354 3941
4月7日(土) 13:30~16:30	保護と平等・対立の構造を斬るー山川菊栄の女性労働論ー 講師 竹中恵美子 △山川菊栄生誕百年を記念する会▽	飯田橋セントラルプラザ12F 03 816 5075
4月13日(金) 18:30~	物言い一番ーハッケヨイ 女人禁止?大相撲土俵の謎解き講座 お話・樋口恵子 △行動する女たちの会・女の土俵グループ▽	新宿区婦人情報センター 03 357 9665
4月13日(金) 18:30~21:00	あこら例会・編集会議 △あこら▽	あこら読書室 03 354 3941
4月25日(水) 19:00~21:00	自立の心理学 講師 しま ようこ△あこら▽	あこら読書室 03 354 3941
4月28日(土) 13:00~17:00	象徴天皇制を考える III 女・天皇制・戦争II主に朝鮮人従軍慰安婦を考える 報告者 鈴木裕子・角田由起子・深江誠子 △天皇制・おんな塾▽	江東区総合市民センター 03 686 5805 (野村方)

もうひとつの山が動いた

一斉藤佐

三月一七日の朝刊を見ておどろいた。井田恵子弁護士の写真が載っている。何事ならんと記事を見れば日弁連事務総長就任決定の報道である。

昨年夏の参院選から都議選、先ごろの衆院選と、女性パワースの盛り上がりで世の中が変わりつつあることは実感できるが、日弁連事務総長就任となると今ひとつ距離があって身近に受けとめられない向きも多いかと思うので、まずここに掲げる新聞記事を見ていただき、これに個人的感想を交えながら今回の人事のもつ意味を考えて行きたい。

井田さんに初めてお目にかかったのは昨年二月の天皇制問題の勉強会の席上である。すでに「天皇報道に驚く」で承知はしていたが、大胆で明快な話の運びに魅せられ、その後間もなく有楽町駅近くの事務所をお訪ねした。九月になって「買春問題」ととりくむ会が銀行のソープランド融資追及の運動をするので協力しないか、とのお誘いをうけ、喜んで参加した。その調査と活動の報告は井田さんの手でまとめられ、やがて発表されるが、私としてははじめて主体的に社会的な運動に



日弁連に女性事務総長

日弁連の次期事務総長に、東京弁護士会所属の井田恵子さん(58 写真)の就任が十六日、

で、井田さんは来月一日から二年間、全国一万人の弁護士を擁する日弁連の実務のとりまとめ役に就く。事務総長に女性を起用するのは、昭和二十四年の日弁連発足以来初めて。

井田さん「女性」「市民」の立場で

事務総長は、日弁連活動を具体化させるうえでのまとめ役。古い言葉を使えば、女房役、ともいえるポストだが、井田さんは「女性の権利に関する活動に携わってきた経験や、地域の中

に問いかけ、意見を聞くための橋渡し役が自慢、とも話す。自身の事務総長就任について

「地域の中でも具体的に生きる女性が増える中、あらゆる面で女性の参加がもっと必要

3月17日/日経

加わり、十分な手応えを感じながら活動した体験であり、忘れることができない。

その間に、井田さんがどんなに多忙な日々を送っておられるか知ることができた。毎日ではないかと思われるくらい様々な会合や行事に参加されているようで、私などには想像もできない行動力である。去る一月一九日に日仏会館で行われたリクルート疑惑の国民法廷で裁判長を務められたことは新聞にも報道され、御存知の方も多いであろう。またリゾート法成立で拍車がかかっているゴルフ場建設問題をどうするかも井田さんの大きな関心事の一つである。

このように並外れた活動家の井田さんであるが、私の妻がお目にかかったの印象は「顔を見ただけで何でも相談したくなる人、何でも話してしまいたくなる人」……。言い得て妙だと思っている。

三月に行われた日弁連会長選で中坊公平氏が対立候補に大差をつけて当選したが、この選挙は人権派と業務派の争いであつたといわれる。業務派というのは近年訴訟事件が激減しているのを心配してこれをいかに増やすかで弁護士界の立て直しを図ろうというものであるが、この訴訟事件の減少というのは、かつて「戦いある所総評あり」といわれた総評の退潮——そして解散消滅——が主因だとされているが、それを含めて司法の反動化、社会の反動化の中で自らの人権を守ろうとする市民の努力が酬いられないケースが激増したことが大きな背景になっているといわれている。

そしてもし短絡的に「どうしたら事件の数を増やすことができるか」と焦っているのが業務派だとしたら危険この上ない。人権が弁護士によって守られる、との信頼感が市民の間に行きわたれば、自ら結果として事件は増え、弁護士の権威も高まる。これが健全な一般市民の期待である。

こうした中での人権派の中坊氏の会長当選、そして井田さんの理事会での全員一致による事務総長就任は春の訪れを思わせる明るいニュースである。

旧版の「全国弁護士大観」（弁護士名簿）には歴代日弁連会長のほかに事務総長の写真も載っていたが、その風貌のいかめしさ、重々しさにいつも気圧される思いがしたものである。このような典型的な男社会である弁護士界で、井田さんが日弁連事務総長の地位に全く自然体で就かれたということは、ご自身の人格、経歴、実績が然らしめたものではあるが、同時にその背後にある女性

の長い戦いの歴史を思い、改めて山がひとつまた動いたとの感想を禁じえないのである。

しかしまだまだ司法界の冬は厳しく夜明けは遠い。先頃の総選挙と共に行われた最高裁判事の審査の際、新聞には論説といわず投書欄といわず、その任免方法について国民の日頃の憤懣をぶちまけるかのように論議が行われた。また弁護士会の非行の報道も相次いでおり、昨年は弁護士の懲戒が過去最高の二八件にのぼったと伝えられ、日弁連は弁護士倫理を三五年ぶりに改訂してこの状況に対応しようとしているが、その実効性を危ぶむ向きも多い。司法の「敷居の高さ」の改善に取り組まれようとする井田さんの抱負を実現するためには、我々の中に一人の無関心派もいてはならない。「おめでとうと申し上げてよいのか、ご苦労さまと申し上げたほうがよいのか」との私の言葉に、「その後のほうでしょうね」といわれた井田さんは頬をなせる仕草をしながら、「二年後にはげっそりなって帰って来るかも知れませんか」と笑われたが、任期の明ける二年先、桜の花の咲くころには、凱旋將軍のように迎えたいものである。「皆さんの協力なしにはできません」との言葉をお伝えするが、それでは我々に何ができるのか、何をすべきか。一つはご多忙と立場ゆえに今までの運動を一時中断、ということもあろう、それを肩代わりすることである。そして最も大きなことは、司法を通じての人権実現という意識と運動をこの絶好の機会に盛り上げることである。これが「協力」といわれた真意ではなからうか。(あごろ)の場でも一緒にいろいろ考えていきたい。

〔妻を語る——井田邦弘氏〕(談)

事務総長とは会長の女房役。最高裁の事務総長に対応するもので、内閣で言えば官房長官、政党内では幹事長、たいへんな激戦です。日弁連には大臣にあたる副会長が全国に十二人いますが、副会長の義務は月二回の会議に出席すること。会長と事務総長は朝九時半から夜まで毎日出勤、事務のすべてを処さなければならず、弁護士業はお休みです。二年の任期を無事終えられるか心配ですが、森永ひ素ミルク、豊田商事などを担当、人権派、消費者運動の先頭を切り続けてきた中坊会長に口説かれまして、「開かれた司法」に積極的に取り組もうと、決心したようです。

健康が心配ですが、あの人は忙しいほど元気になる人ですからね。ハハハハハ。

くらしの
なかから



「女らしい」というコトバ

黒出石佐和子

「女らしい」というコトバ、私はこれが苦手だ。テレビやラジオの中、日常のさりげない会話の中でこのコトバに出会うたびに、私は戸惑い怖じ気づく。そして、できればその場から逃げ出したいような気持ちにかられる。似合わないと思っている服を無理矢理きせられてしまうような不安感。

なぜだろう？私は女なのに――。

「女らしい」というコトバにまつわりつくイメージが、私の小さな頃から「好きだな」と思ってきたもの、選びとってきたものと、どこかくい違ってきたせいだろうか。

私には兄が二人いる。幼い頃の私は、この兄たちの後をくっついて、毎日毎日、日が暮れるまで外で遊び回っていた。神社でのカンケリや戦争ごっこ、長馬や木登り、ターザンごっこは言うに及ばず、廃材を使って木の上に小屋のような物をつくったりして遊んだりもした。

暑い夏の日のは、むせかえるような草の匂いの中で、トカゲ取りに夢中だった。兄と一緒に何匹もつかまえて、飼ったり

もした。小さな私はいつもミソックスで、時にはいいように使い走りもさせられたけど、毎日がワクワクと興奮に満ちていた。でもこういう遊びは、あまり女の子らしい遊びとは言えない。

兄たちの野球の仲間に入りたくて、母に一生けんめいねだって野球帽を買ってもらったこともある。めったに球のこない外野を守りながら、私の小さな胸はドキドキしていた。そしてその日にかぎって高い高いフライが飛んできたのだ。

「よしよし、取るぞ」

前へ前へ――。

「あっ取れた」

と思った瞬間、タマはポロリと落ちていた。

突然キャッチャーボックスのほうから、

「おいその子のオ、男ならしっかり取れ!!」

という声が飛んできた。これにはさすがに幼い私の女心は傷ついてしまったが、野球は楽しかった。

中学に入学した時、はきなれたGパンを脱いだ。そして、「制服」という名のスカートをはいた。その時の足元がスースーするような不思議な気持ち。

高校の時は、バスケットに夢中だった。好きな男の子のために、セッセとマフラーを編むクラスメートを尻目に、私はゴールに向かってシュートを打ち続けていた。

「女らしい」という点で考えれば、いつも私はどこかはみだしていた。小さな頃はまだ良かった。けれど大きくなるにしたがって、（表面は明るく屈託がなかったけれど）、私はいつも「女らしい」という言葉におびえている、ぶきつちよな女の子に育っていった。

私が「女らしい」という言葉が苦手な理由がもう一つある。それは中一の秋に父と母が離婚したことだ。理由はいろいろあったと思う。二人が育ってきた時代や、生活上の様々な困難や性格やら……。でも結局は母が、父との関係で「女らしい」という鑄型にはまりきらなかったのだと思う。

離婚して母は美しくなった。女手一つで私を育てなければならなかったから、働きに働いた。きつと泣きたいような日は、幾日もあったことだろう。けれど母は日ごとに、美しく伸びやかになっていった。小さな会社の事務員だけど、いつの間にかその会社ではなくてはならない人になり、仕事での苦労や喜びややりがいを、私に向かって一生けんめい語ってくれた。「女だって大学くらい行かなくてはダメよ。」と言って、進路を迷っている私を励ましてくれたのも母だ。

「女の幸せは男次第」という言葉があるように、結婚して幸せになる人もいるだろう。でも離婚すること、（いや離婚してもと言うべきかな）、幸せに、いや少なくとも輝き出す女がいることを私は母から学んだ。結局「自分の幸せは自

分しだい」というわけだ。だから私は、その延長線上に男の囲ったワクの中で幸せに生きるというニュアンスを持つ「女らしい」という言葉が嫌いだ。これは私の偏見なのかナ。

私は考えこんでしまう。「女らしい」という言葉、それはほんとうに女の人が幸せになることに役立ってきたのだろうか。今の所、私の答えはノンである。もし、「女らしい」という言葉が、私の内からあふれでる何ものかを伸びやかに育ててくれるものであったなら、そしてもっと私の内にあるほんとうの女を耕することであつたなら、私はどんなに「女らしい」という言葉が好きになったことだろう。でもそれはちがっていた。いつも私を鑄型にはめようとするもの、それが「女らしい」という言葉だった。言葉は時代とともに変わっていくだろう。そして時代は確かに少しずつ動いている。けれど今のところ私は、目の前を日々天真爛漫に生きている小さな娘に向かって、「女らしくしなさい」とは決して言うまいと思っている。

離 婚

二九 芥末二二 津井

トルストイではありませんが、幸福な結婚はどれも似かよっているけれど、不幸な結婚の有様はいろいろです。私の父

と母の場合もそのひとつにすぎなかったと今は思うことができます。

家庭裁判所の狭い控室で、母側の弁護士さんに、「結論から申し上げると、ふたりは別れたほうがいいと思います」と、高校一年だった私は、必要以上にキツパリと言いました。それはカッコイイせりふで決めようという若さゆえの見栄でした。けれども、幼児の頃から絶え間なく続いていた両親の諍、にうんざりしていた私の本心でもありました。

裁判所の別の一室では、調停作業が行なわれていました。父や母を別個に、時には同時に呼び入れて、調停委員が各々の言い分を聞き、妥協を見出し、何らかの結論を下そうとしているのです。母は父の横暴を、多くの女性関係を訴え、父は母の狭量な性格を非難していることでしょう。台所で踞る母を撲りつける父を小学生の私がむしゃぶりついて止めたこともありました。母の愚痴を明け方まで聞いた夜も数えきれません。調停開始までの一年間ほどは、ごくたまに父が帰宅すれば罵り合いが何時間も続きました。そうして私が、父が、望んだように、ふたりは十八年間の結婚生活を終えました。

最初は、頑強に離婚に抵抗していた母でしたが、経済的な保証がされたので、調停委員や弁護士の説得に応じたのです。住んでいる家を分与され、生活費や、私の教育費も送られるということ、経済的には恵まれた離婚でした。父は当時高

収入があり、一時も早く、若い女性とその赤子のために、新しい家庭をつくりたいと焦っていたからです。母は働きに出る必要もなく、母に引き取られた私も、同じ私立学校に継続して通学できるわけで、精神的にサツパリして、かえって快適な生活ができるはずでした。私はそう思って、離婚に賛成し、母を励ましていたのです。

しかし現実には冷酷でした。学校の名簿から父親の名が消え、別姓の母親名だけになります。進学、就職、結婚と、父親が不在ということ、を、いろいろな言い方で弁明しなくてはなりません。現実的、精神的になんと大きなハンディになってしまったことでしょう。母は恨みに凝り固まり、自分を悲劇のヒロインとしか見られなくなっているようでした。私にも猜疑心をむき出しにして干渉するようになりました。家の外では馴軽で通っていても、私は陰気な自分を意識することが多くなりました。年月を経て、母や私の心の傷も薄れてきたようですけれど、言ってはいけないことを赤裸々にぶつけ合う人間関係の修羅場を経験したことは決して忘れられるものではありません。多くの場所、係累ゆえにやんわりと拒絶された痛みは深くしこっています。

私の現在の結婚生活は両親のそれに比べて、「平凡な幸福」といいいいでしょう。それでも私は、いくら一緒に生活しても魂は別々という思いから抜けられません。何かがあればお互いの心の牙をむき、傷つけ合うのではないかと恐れなが

ら暮らしています。この私の心の底の暗い怯えこそ、両親の離婚がひとりっ子だった私に残した最大の後遺症という気がします。

不田思議な女になりたい

伊藤 登美子

座の寂しさ

火星の国に生まれたような

不思議な女が出てこなくては

これは、文学少女でもない私が、学生時代にたまたま出会い、心にしみこんで、今もなお忘れられない詩だ。

私は、もの心ついた頃から、なぜだかわからないのだが、「差別」ということに敏感な子だった。

まだ、目に見える形で貧困があった小学生のとき、母親のあとについて行商に回っていた私とおなじくらしい年のみすばらしいかっこうをした子に胸を熱くした。

「女のくせに」ということは大嫌いだっただ。

みんな同じ人間なのに、自分で選んだわけでもない生まれた家のちがいや、男に生まれてしまった、女に生まれてしま

ったことで、どうしてぐらしがちがい、見る目がちがうんだろう、それはおかしいことだとずっと思いつけてきた。

それでも、親元で庇護されながらいた高校時代までは、募る思いはあったけれど、差別によって私自身が心身の痛手を受けたことはなかった。

それが、大学に入るために上京し、監視の目がないのをいいことにのびのびとくらしはじめ、回りとの関係をつくっていくなかで、ガク然とさせられること、深く傷ついたことにたくさん出会ってしまった。

ある男友達は、女も男もなく誰とでもつきあう私に、悪気はないのだろうが「尻軽おんな」と言った。

私は泣いてしまった。

みんな同じ人間と思いたいのに、私を女としか見てくれなかった男に身体まで傷つけられそうになったこともあった。

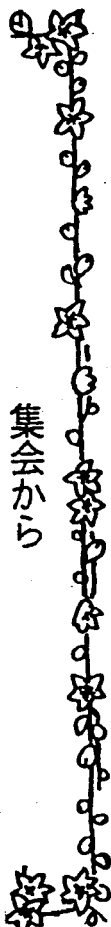
そのときもまた私は、泣いてしまった。

私自身の身にしてみるたくさんのことがあるなかで、あの詩に出会ったのだ。

あの詩は、たった三行なのに、多くのことを語りかけているような気がする。

今でも私は、女である自分とそのものさしでしか見ない悲しい現実と向きあいながら生きている。

不思議な女、追求中なのである。



集会から

ミモザ賞の女たち（敬称略）

☆土井たか子 参院選でひとつの山を動かした。

☆五島昌子 土井さんをささえる影の功労者・秘書

☆石橋初子 女性の等身大人体模型の制作者

☆土木建築女子学生会の会

土木建築界に女性が進出

☆働くことと性差別を考える

三多摩の女たちの会

「性的いやがらせをやめさせるためのハンドブック」を訳

一万人アンケート調査の実施

☆大島かおり 訳者

アドリエンス・リッチ女性論

①うそ・ひみつ・沈黙

②血・パン・詩（晶文社刊）

☆河地和子・訳者

ポーラ・ギディングス著

アメリカ黒人女性解放史

（時事通信社刊）

土井さんが歌ってしまった

「国際女性デー・女のコンサート」

高原あんず

3月8日は国際女性デー。この日、イタリアの女たちは、ミモザの小枝を胸に付けて集会にでかけるといふ。

東京・原宿のクレヨンハウスでは、3月8日、「国際女性デー・女のコンサート」が開かれた。参加者は百五十名。

あさとりさんの歌で幕が開き、女の本屋「ミズ・クレヨンハウス」のオーナーでもある落合恵子さんのメッセージが始まると、会場の中がそわそわしだした。みると、ピンクのスーツを着た背の高い女性が現れたのである。

「え？土井さんがコンサートに！」

実は、89年に「元気を与えてくれたひと、やったね！」という女たちに花束の

「ミモザ賞」が贈られたのである。土井たか子さん、そして秘書の五島昌子さんにも。

すると、場内からとつ然「土井さん、歌うたって！」という声が。土井さんはびっくり仰天！五島さんが、「皆でお願いすれば歌ってくれるかもね」と助け舟を出してくれたので、また会場から「サントワ・マミーを歌って！」の声。もう場内は拍手と興奮で熱くなってしまう。土井さんは、やっとマイクを握ると、「まあ、よく調べてきたわねえ」。（大笑）

金ちゃんのピアノ伴奏に合わせて、
ハ・ふ・た・りの恋はあ——V

「こんなに歌が上手だとは知らなかったわ！」私の隣にいた若い女性二人は、思いがけないプレゼントに酔いしれていました。

☆池内靖子・訳者

アメリカ女性詩論

アリシア・オストライカー著

言葉を盗む女たち（土曜美術社刊）

全力疾走の快感

「サラフィナ！」

芦澤礼子

私の記憶の中にある南アフリカ共和国は、吉田ルイ子さんの写真の中にいる人々であった。ソウエトの殺風景な様子、無表情な目。その黒い肌ゆえに差別され、人権を踏みにじられ続ける人々のことを、私はもっと知りたいと思っていた。「名誉白人」日本人の端くれとして、心の痛みも感じていた。

「サラフィナ！」は丸ごと南アフリカ産のミュージカルである。「サラフィナ！」を見に行くとき、私の中には「アパルトヘイトを学びに行く」という

気負いが確かにあった。それは「ミュージカルを楽しむ」という目的とは異なるものである。見終わった後にはきつと重い感情が残るに違いないと思い込んでいた。

しかし、予想はずれた。「サラフィナ！」は何よりもエンターテイメントとして優れていた。私は笑い、涙ぐみ、手をたたき、「サラフィナ！」というショーを充分に堪能した。

主人公はサラフィナ。モリス・アイザクソン高校の女生徒。この高校は一九七六年ソウエト蜂起の発端となった所である。サラフィナとクラスメートたちはその精神をうけつぐ者として登場する。アフリカの歴史をアフリカの言葉で学びたい！サラフィナは活発に活動し、その結果政治犯として逮捕されてしまう。二か月後釈放されたサラフィナを囲んで皆は喜ぶが、その体の傷を見て絶句する。その直後、授業中に乱入してきた軍隊に多くの仲間が殺されてしまう。殺された友人たちを埋葬する場面は痛々しい。劇

中でこの場面が最もアパルトヘイトの残酷さを語っている。これは物語ではないのだ。舞台上の一人ひとりが母国で体験した事実の再現なのだ。

だが、「サラフィナ！」の後半にはその事実を乗り越えていくパワーがみなぎっていた。ラスト近く、学生祭の場面では、今まで制服姿だった高校生たちがカラフルな民俗衣装に着がえ、アフリカ音楽のリズムに乗ってダイナミックに歌い、踊りまくる。これはまさに庄巻だった。

民俗の文化を高らかに誇る若者たちがまぶしかった。そこには暗さや卑屈さなど少しも感じられなかった。ネルソン・マンデラに扮したサラフィナが演説をする。その姿が二月にテレビで見たマンデラの姿とだぶる。彼が釈放されたという現実、明らかにこの舞台上に希望と活気を与えていた。

「サラフィナ！」の見事に鍛えられた歌と踊りは、それだけでも感動に価するものだった。ア・カペラの合唱は黒人霊歌のように美しく、民俗衣装での踊りは

わくわくするほど躍動的で、一つひとつの場面が実に充実していた。歌を通じ、踊りを通じ、彼らはアパルトヘイト廃止を訴える。鍛えられたものであればあるほど、それは説得力を持つのである。

アンコールでは場内は総立ちだった。

『FREEDOM IS COMING TOMORROW!』歌に合わせて手をたたき続けた。上演時間は三時間、そんなに長かったとは信じられない。見終わった後の気持ちは重いと言うよりむしろさわやかだった。いわば「全力疾走の快感」だった。全力で舞台を駆け抜けた人々のことを、私はいつまでも忘れないだろう。(3月17日 簡易保険ホール)

〈後日談〉

21日、東中野「ボレボレ座」でサラフィナのメンバーを招いてパーティーが行われました。英語苦手な私はほとんど話すこともできず、残念です。会場はズールダンスで大変な盛り上がりでした。

陽気な人ばかりで、踊り出すと止まらないう！という感じでした。

『リゾート開発への警鐘』

ゴルフ場問題全国連絡会編

本書は昨年九月二〇日、ゴルフ場問題全国連絡会が「リゾート開発とリゾート法の問題点」をテーマに催した勉強会の講演記録集である。

内容は、総合解説「リゾート開発とリゾート法」(宇都宮大学藤原信教授)、座談会「リゾート法のもたらすもの」(司会、日本消費者連盟野田克己氏)、報告「沖縄のリゾート開発」(山里節子氏、新石垣空港建設阻止委員会)、報告「北海道におけるリゾート開発と自然保護」(北大名誉教授八木健三氏)、「日本の森林が危ない」(神原昭子氏、ゴルフ場問題連絡会)から成る。

リゾート法(総合保養地域整備法)が一九八七年五月二日に成立し、さらに森林の保健機能に関する特別措置法が昨

年二月一日に成立、ゴルフ場、スキー場などの建設が国の尻押しを得て一気に加速することとなった。この危機的状況に直面したゴルフ場問題全国連絡会、日本消費者連盟、各地の自然保護団体の危機感と焦立ちが一行ごとに伝わってくるのが本書である。

ゴルフ場問題はとっつきにくい、わかりにくいので本書の書評を、とのことで遊びとしてのゴルフには縁もなければ関心もない人あごろの会員としてははもったないことであるが、そう言っていられない状況を私としても是非知っていたいただきたいと思う。ともかく読んでいただくほかないのであるが、私なりにかねてから考えていることを記して書評に代えた。

第一に、建設業界、鉄鋼業界、観光業界などが、利潤追求の立場から国土保全、自然保護の規制緩和を求めてリゾート法

の成立に動いたのは、許せないながらも分かるが、国が露骨に手を貸していること（各条文にわたって誰の目にも明らか）は、怒るのを忘れて呆れる。

第二に、我々の期待する社会党までもこの法案に賛成してしまったこと。さる女性議員から、忙しさに紛れて賛成してしまったとの弁明（？）があったが、聞いて落胆するばかり。消費税も大事だが、伐り倒された木、崩された山は元に戻らない。むしろこの方が深刻ではないのか。

最後に私が一番言いたいこと。ゴルフ場問題に取り組むことによって、男社会の虚妄、虚構が見えてくる。女の立場からこそ取り組むべき問題なのである。もしこの問題で△あごろ△でも勉強会を、ということであれば、もちろん喜んで参加する、いや呼びかけたい気持ちでいっぱいである。

△九〇年二月刊 百九十四ページ、
千円 リサイクル文化社△

（佐藤齊一）

1990年5月27日(日)PM.2~8時

●中野公会堂



お七・お・お・お・お
女たち!!

●女らしさから自分らしさへ
女の表現ってこんなにたくさんあったの
かって驚いてしまうのが△あそぼうぜ
女たちのまつり△です。

△あごろ書房△は女の本を出版するの
のでぞいて見てね。△でめてる△は、玄
米弁当をつくって出店してくれるからお

屋は今から楽しみです。現在は横浜女性
フォーラムにしかない△女の等身大人体
模型△を会場に展示。お腹の真ん中をバ
カッとはずすと、子宮や内臓を自分で確
かめることが出来るのです。

●5月27日(日) PM 2時~8時

雨が降っても女たちはあそびます。夫
連れ・子連れでどうぞ。なんとロンドン
から、あの△フランク・チキンズ△がや
ってくるのです。ロックバンドの△マー
キー・ムーソン△も、元氣印のあさとりす
みえと金ちゃんも参加。講師・宝井琴
桜さん、均等法のおかしさもすぐに取入
れ、パパンパン! となで切りにした彼女、
今回は何が飛び出すかな? ほかにうた
コミのミキコさん、劇団はらはら一座、
京都のシンガーさわだみのりさん、美の
くさり展、美術をフェミニズムから検証
する試み、など盛りだくさん。

●電話予約*03(354)3941

やっぱり予約がいい。予約券2500円、
当日券2800円。△あごろ書房△で
予約お受けします。



あいらのあいらのあいらのあいらのあいらのあいらのあいら

◆ごぶさた、先ずは言いわけから。三つの病いで政治関係家事共に若い人たちに一移し、目下読み書きだけが仕事。頭脳、感覚の衰えも否めないながら、激動の昭和をまるまる生き、翻弄された多くの個人を、息のある間に何篇かにまとめておこうとしています。三月に同人誌に百枚ほど、戦時の哀しい女のハナシが載ります。

おとしになります、が、「朝日」で部落解放文学賞というのを見て、選者、野間宏氏井上光晴氏と知り、試してみましたら、入選一篇佳作一篇の佳作に入っていました（二一九枚）。実はこれも政治活動に追われ尻切れデッチあげでしたが……。

この二つの作品、質がかなり異なります。同人誌が出ましたら、一緒に送らせていただこうかな、と思っています。

自分の体がよくないせいか、斎藤さまのこと、ずっと案じあげておりました。

「あいら」の裾野の広がりをも148号で感じました。一層お元気でいらしていただきたい。新しい時代に移るさまを見届けましよう。

（桶川市 岡田まき子）

◆お手紙をいただいたのは、お正月の頃だったでしょうか。今はもう桜の季節になってしまいました。毎日、お忙しく御活躍のことと思います。お返事を差し上げなくてはと、ずっと心にとめていました。たのに、長い間御無沙汰してしまいました。何かと忙しい日々だったので……という言い訳をするつもりはありません。葉書一枚書く暇すらないなんて私の場合絶対あり得ませんから。やはり気遣いのようなものを感じ始めていたのです。

図書館でたまたま手にした本「何かしたい主婦たちへ」（だったと記憶しています）が……を読んで、この中で模索している主婦達が今の私にまったく重なったのです。こんな主婦達の集まりが〈あいら〉

なのだと早トチリして、即入会。そして〈あいら柏〉という支部があるというのでまた、即お電話を差し上げてしまいました。（この程度のことですが、こんなにすぐ行動に移したのは、今までの私としては上出来なのです）それから〈あいら〉に関する情報がポチポチ入ってきたのです。「働く女たちのグループ」とか情報誌〈あいら〉のレベルの高さ、あいらに關係する人々の生き方、考え方を知れば知る程、私はとてもついていけない」と落ち込むばかりでした。もっと私に近い人々つまり長い間すっかり主婦というぬる湯の中で生きてきて、やっとちらっと、これでよいのかしら、何かしなくては、でも何をしようのかしら、何かしない、でもまだどこかにこのぬるま湯を潔く捨て切れない思いもある——そんな仲間と一緒に何かを探したいと考えていました。お手々つないで……でなければ何も出来ないのと批判もされそうなこともわかりますが、私には一足跳びに〈あいら〉のレベルに入るには今のところあまりに

も精神的な負担が大きすぎます。もう少しウォーミング・アップしたいと思っています。今外へ向けての第一歩として、あるグループに参加しています。私のような状態の人が多い小さなグループです。これなら少し背のびして頑張ればやっていけそうに感じたのです。とは言えあらには熱い眼差しを向けています。そして早くあごろの会員としての自信を持てるよう頑張っていると思ひ続けています。

るようですが前述の様な状態で、とても私は投稿など出来ませんが、私にも出来るような簡単な仕事や雑用でしたらお手伝いさせて下さいませんか。それにただの読者ぐらいいはなれると思います。

(柏市 岡田弘子)

◆夫婦(夫婦?) 別姓も娘達(八才・六才・一才)が結婚を考える頃にはあたりまえになるかしらと、少々希望ももてうな気配。私の姓を名のつてくれている連れあいには感謝しています。

最近また、高橋ますみさんのことある雑誌で読みました。彼女の著書「おんな40才からの出発」のタイトルに惹かれて読んだこともありましたが、彼女は決して40才から出発したのではないと私には思えます。そのタイトルから想像していたのと違って実は、既にずっーと以前から歩き出していたのです。私は正真正銘40才(代)からの一歩です。あせりやむなしさに、しばしば襲われますが、何とかやっていくつもりです。

◆3月22日(木)から24日(土)まで、新宿のあごろ・読書室で「細田ひろみうない窯陶芸展」が開かれました。春らしく明るいクリーム色に改装した読書室での、細田さんの個展。足場のいい場所でのこの機会に何かイベントを、とみんなまで考えた催しです。

(東京 中島はるみ)

素朴な色合いのマグカップ。大きさが様々な湯飲み茶碗。昔、沖繩の人がお酒を入れて腰に付けていたという「抱瓶」。そんな作品にじかに、触れてみる。手のひらに載せて感じてみる。すると不思議、スッと自分になじんでしまう。そう、細田さんの焼物ってどれもこれもアツカい。そして、たくましい! きっと土の感触と、作者の「ハート」がじかに伝わってくるからでしょうね。入場者こそ思ったより少なかったけど、とても素敵な3日間でした。来て下さった皆さん、ありがとうございました。そして細田さん、これからも静かな情熱を燃やし続けていって下さい。——「うない窯」と共に。

(事務局)



選挙特集号特別プロジェクトチーム募集!

女の視点で衆院選を考える



本がつなぐ・人をつなぐ...

「あこら」でネットワーキングしませんか?

「冲縄を犠牲にした安保の上に眠れますか」に続いて、「天皇の法的地位」「女の視点で衆院選を考える」など、ことしは「別冊」をかなり発行する予定です。考える、活動する資料として、一所懸命つくっていますので、買っただけそうな友人・知人をこ存じの方は、一冊でも二冊でも広げていただけませんか。

●送料はすべて無料。一〇部以上は一割引き、三〇部以上二割引き、五〇部以上三割引き、一〇〇部以上は五割引きいたします。

地域での学習会や、あなたの活動資金づくりに、ぜひご活用ください。友人にプレゼントなりたい場合は、あなたのお名前です事務局からお送りします。振替が届き次第、発送いたします。

郵便振替・東京0115264あこら編集部

あなたもエディターしてみませんか

「女の視点で衆院選を考える」——を、いま編集中です。

この前の衆院選、あなたはどうか感じになりましたか? 当選した方、残念だった方、途中でヤメた方、その応援団等々、(あこら)ならではのホッネのAGORAZEIN(大討論)に加えて、資料やインタビューを集めています。本づくりに、おもしろいですよ。あなたもぜひ、ご参加を。0311354113941(あこら)へお電話または1160東京都新宿区新宿1-9-6 TEL03(354)3941

あこら編集部 〒1160東京都新宿区新宿1-9-6 TEL03(354)3941

編集後記

◆ご依頼を受けて品川区で「気楽に書ける文章教室」のお手伝いをしました。「くらしの中から」の三編はその教室の作品です。ごくあたり前の女性ひとりひとりに、色濃い「女の歴史」があることを感じた十週間でした。(あこら)の原点が、生活者の日常の時間と空間にあったことをあらためて思いました。誰でもがいつでも書けるページをもっとふやしたいですね。(千)

◆上京してすぐ香港風邪を引いてしまいました。やっと峠を超え、ほっとしていると今度は「花粉症」。東京の空気は汚れているのですね。信州のきれいな空気がなつかしくなりました。(大)

◆相変わらず忙しい毎日の事務局、細田さんの初展で求めた湯のみに渋いお茶を入れて：私のほっとするひとときです。(あ)

振替・東京0115264